

# 笑顔の ひろば

vol. **22**

夏号

発行

2013年8月31日

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hospi.jp>

## 医療と介護の架け橋を！

### ～ 医療と介護連携の会がスタート～

「地域と医療」、「医療と介護」の連携を深めようと、5月24日の夕方、川崎協同病院近くのマンションの集会所で、第1回「介護・医療地域連携の会」を川崎医療生活協同組合（川崎協同病院、協同ふじさきクリニック、介護福祉部）の主催で開催しました。

今回は、地域で介護事業に携わる事業所のスタッフの方などに参加を呼びかけたところ、川崎南部地域の包括支援センターをはじめ、さまざまな事業所からケアマネージャーや介護スタッフの方、また医療関係のスタッフなど68人が参加されました。

住み慣れた地域で生活を継続するために必要な体制を整えるには、医療と介護の連携は欠かせません。そのためには顔を合せて意見交換をしたり、協力して支援する関係や環境を病院が中心となって作ることが重要です。すでに多くの病院では取り組まれています。川崎医療生協でもこの会合で、第1歩を踏み出すことができました。



協同ふじさきクリニック所長 桑島政臣医師

## 主治医と上手につきあう方法を

今回は協同ふじさきクリニック所長・桑島政臣医師が「主治医と上手につきあうために」をテーマに1時間程度の講義を行いました。最近の情勢からはじまり、Q & A方式の資料を使って医師とのやりとりの方法が説明されると、質疑応答では堅苦しい会ではなかったためか、気軽に感想や質問が出て、有意義な意見交換ができました。

「分かりやすく説明してもらえた」、「率直な意見が聞けて親近感がわいた」、「次回も必ず参加します」、「先生の体も大事にしてください」、「楽しかった」などの感想がよせられました。その反面、「まだまだ医療機関との連携は敷居が高い」、「直接医師とコミュニケーションがとれない」、「医療機関は忙しく時間の調整ができない」、「相談しづらい」といった意見も出されました。

今年度は年3回の予定で、講演と意見交換ができる場にしたいと考えています。今後も様々なテーマで開催する予定です。

地域連携室 看護師長 小森千絵



# 栄養科 って どんなトコ?

現在栄養科には5人の管理栄養士と2人の調理師、10人の非常勤職員が勤務しています。おもな業務は入院患者さんへの食事の提供で、「かながわセントラルキッチン」で調理したものを栄養科で盛りつけし、病棟へ配膳しています。

管理栄養士は毎日病棟に出向いて、患者さん一人ひとりの病状や入院時の栄養状態などを把握し、食欲がない患者さんには、嗜好調査を行って、主食の量や内容を変えてみたり、飲み込みが悪い患者さまの場合は病棟のスタッフと相談して、柔らかい副食に変えたりして経過をみます。

糖尿病や腎臓病などで入院された患者さんには、まず食事療法について理解していただき、実行しやすい具体



赤ちゃん教室で栄養指導や離乳食指導を行います。



的な栄養指導を行うようにしています。退院後も引き続き近場の協同ふじさきクリニックなどで栄養指導を受けていただくようにしています。

ほかにもマザークラスでの妊娠中の食事についての指導、乳児健診での離乳食の指導、赤ちゃん教室で年6回離乳食の試食なども行っています。

さらに特徴的な活動として、地域での班会（医療生協組合員さんの学習会）や調理実習などがあり、2012年度は年間30回をこえました。内容も離乳食の作り方からクリスマスのメニュー、風邪予防のメニューなど多岐にわたっています。地域の組合員さんと和気あいあいと調理するのは、とても楽しみです。

食事やダイエットについてはテレビや雑誌などでさまざまな情報が発信されているので、私たち専門家も日々学習が欠かせません。これからも学習を積み重ね、さらに信頼される栄養科をめざしたいと思います。

栄養科 科長 小川智子

## 組合員と職員と一緒に病院をきれいに ～緑化活動に参加しました！～

REPORT

あくしょん

action

川崎協同病院は毎月1回、病院の周囲の花壇などを整備する“緑化活動”を医療生協の組合員さんと職員が共に行っています。今回、病院の美観を守る“あくしょん”を体験してきたのでレポートします！

AM9時、病院玄関に集合して「今日はこの花壇付近をやりましょう」と、事業所利用委員の洞口延江さんのリードで組合員さんと看護師、薬剤師、MSWなどの職員、総勢13人が草取りや剪定を行います。

組合員さんたちから「剪定ばさみはこう使うんだよ!」、「私たちは看護師さんの仕事はできないけど、こっちはまかせてよ! (笑)」と、笑い声が響きます。職員も慣れない手つきで「暑いね～」と言いながら、草取りをします。

てきぱきした手さばきでどんどんきれいにしていく組合員さんたちの姿は頼もしいものでした。高い木に登って剪定する組合員さんの姿には「すごい!」の言葉しか出ません。



終了後は組合員さんと一緒にお食事をして楽しい時間を過ごしました。私たち職員も病院の美観を保つために地域のみなさんが協力してくれていることを実感しました。また、ふだんは組合員さんの活動に触れる機会が少ないので地域の活動に接するととてもよい機会になりました。

医師事務室医学生担当 木下博志

# 私が担当します！

様々な感染から、患者様・ご家族・職員、そして地域の方々を守るのが使命です。



感染管理認定看護師 渡邊寿美子

こんにちは。今年の1月から、感染対策を担当している渡邊です。医療安全管理室に所属しています。出身は福岡で、看護学校を卒業後、福岡医療団千鳥橋病院に入職しました。その後、福岡県大牟田市の親仁会米の山病院に移りました。ここは、三井三池闘争で活躍した労働者作曲家・荒木栄が没した病院です。

「働く人たちのための医療施設」「貧しい人たちにも平等に、親切で良い医療を」という考え方に共感し、民医連の病院で働いてきました。

その後、横浜に移り住むことになり川崎協同病院で働くことになりました。ここでは感染対策の看護師チームに入り、活動してきましたが、感染対策の専門家を置きたいという要望に応え一念発起し、昨年7ヵ月間の研修を受けました。

様々な感染から、患者さん・ご家族・職員、そして地域の方々を守るのが、私の使命です。現在は、ベッドサイドで直接患者様のケアを行うことはありませんが、外来・入院中の患者様や地域組合員の方々を感染から守ることも、大切な看護の仕事のひとつだと思っています。

国立福岡中央病院付属看護学校卒、福岡医療団千鳥橋病院、大牟田親仁会介護老人保健施設くろさき苑、親仁会米の山病院で勤務。2004年2月から川崎協同病院の療養病棟、回復期リハビリ病棟、慢性期内科病棟に勤務。2012年に神奈川県立保健福祉大学実践教育センター感染管理認定看護師教育課程卒。

感染対策は、ひとりではできません。色々な職種が集まっている感染対策チームのメンバーや、現場のスタッフたちと協力しながら、インフルエンザ・感染性胃腸炎・流行性角結膜炎など、あらゆる感染症について、予防と感染拡大防止に努めています。

また、感染症によっては、入院患者様を守るために、面会制限や、面会の方のマスク着用・手洗いなど、ご家族や病院に出入りする皆様のご協力をお願いすることもあります。

患者さん・ご家族・組合員の方々からの、感染に関するあらゆるご相談にも応じ、院内外を問わず学習会も行います。もし何かお困りのことがありましたら、どうぞ気軽にご相談ください。

## STAFF「もうひとつの顔」

### トライアスロンでリフレッシュ!!

### 元気と体力で 患者さんを応援します!

川崎協同病院 5階病棟 看護師 井上満美



川崎協同病院5階病棟の看護師の井上です。

父の病死を契機に、学生時代は体育の成績が「2」だったにもかかわらず、思い切ってトライアスロンを始めて、はや10年になります。体力の限界に挑戦するためロングタイプ（水泳3.8km、自転車190km、ランニング42km）を専門にしています。最近は山を走るトレイルランニングも大好きになり、今年は100km前後の超長距離山岳レース3回に出場予定です。頑張っていると時々いいことがあり、今年は2回、総合入賞を飾ることができました。職場の理解と支えを頂いてのレース出場、感謝の毎日です。レースでもらった元気と体力で、病棟の患者の皆さんを応援していきたいと思っています。





# だれもが力いっぱい生きていける地域を目指して～青丘社

病院は地域との連携がなにより大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第2回は、「社会福祉法人 青丘社」です。

(取材：地域連携室 小森千絵、高橋靖明)

川崎協同病院のすぐ先にある商店街を抜け、路地を一つ曲がった住宅街にふれあい館はあります。玄関でスリッパに履き替え中に入ると、子供たちのはしゃぐ声が聞こえ、子供のころに通った児童館を思い出しました。館内には、ハングル語の掲示物や韓国・朝鮮の書物などがあり、独特の雰囲気と歴史があります。

そもそもこの地域は、在日韓国・朝鮮人の方が多い地域で多くの差別や偏見の歴史がありました。そこで在日大韓基督教会・川崎教会が「社会福祉法人青丘社」として、1969年に民族差別の苦しみを子供たちにさせないために、民族保育の充実を求め桜本保育園をつくりました。



ふれあい館で行っている識字学級

この取り組みが進む中で学校現場や社会の中での民族差別の実態がより明らかになり、民族教育の活動の場が求められ、10余年におよぶ運動の結果、1988年にふれあい館が誕生しました。

設置は川崎市ですが、委託により青丘社が運営する公設民営の施設です。設置目的は、「日本人と韓国・朝鮮人とのふれあい。在日外国人をもふくめた市民が子供からお年寄りまでがふれあうこと」です。

おもな活動は、こども文化センターや社会教育活動(識字・ハングル語・学習支援・料理など)、外国人高齢者相談事業・交流事業等があります。また、活動の中から高齢者福祉、障害者福祉など、生活者の立場に立った幅の広い事業を行う青丘社のネットワークが作り出されています。2000年以降では、在日外国人の高齢化に伴い、

居宅支援・ヘルパー・デイサービス等の事業を開始し、言葉や文化を大切にしたいその人らしさを支援する取り組みがされています。

障がい者(児)分野でも、地域の一員として普通に受け入れられる地域社会を作るために、障害者就労支援事業・グループホーム・タイムケア事業などの様々な事業が行われています。

## ●青丘社から協同病院へひとこと・・・

病院に行くと、在日の方や外国籍の方は言葉や文化の違いのため、精神的にも環境的にもかえって力を落とすことがあります。そういうことを理解した上での関わりをしてもらえるとありがたいです。また、「こども医療互助会」の取り組みなど地域の現状・課題を理解し、市民の立場にたって活動している川崎協同病院には大きな役割があり期待しています。

## ●おじゃまして・・・

ふれあい館館長の三浦知人さんのお話は、この紙面の中ではとても語りきれないほどの大きなエネルギーを感じるものでした。なかでも「差別は地域の中にある。それを地域の中から変えていく」とおっしゃっていた言葉が強く心に響きました。



青丘社が指定管理者となって運営するふれあい館

## 広報係のひとりごと

地域連携室が担当する新コーナー「おじゃまして!」。始まったばかりですが、いかがでしょうか? 毎号掲載というプレッシャーに不安を感じながらも、2回目を無事に出すことができホッとしています。当院が地域の病院であることを意識し、まずは地域の施設などで活動されている方々をとりあげています。訪問して日常生活の場を見せていただくことで、通院されている患者さんや入院する患者さんの姿を想像することができます。また、施設の生い立ちなどを知ることで、活動の想いの深さを知り感動もしました。地域をこれまで以上に身近に感じるなあ、と満足しています。

最終目標は地域で開業されている先生方にお話をうかがうことです。高橋、小森コンビで頑張ります。今号の1面で紹介している介護・医療連携の会もスタートしました。地域も病院もみな熱い思いをもって日々活動しています。

地域連携室 看護師長 小森千絵